

徳田の歴史-7

正念寺の釣鐘

1/2



正念寺本堂



正念寺の釣鐘

正念寺(真宗高田派)は今から約1200年前の平安時代に真言宗の寺として建立され高田本山の真恵の教化により今から550年前に浄土真宗に転派して現在に至っています。正門横にある釣鐘堂の鐘は明和年間(江戸時代中期)に製造されたものです。

●この釣鐘のいわれについて

昭和16年8月(太平洋戦争の始まる少し前)“金属類回収令”と言う法律が出来“金属類は供出せよ”との指示が全国的にあったそうです。ここ正念寺もその対象となり昭和19年3月(敗戦色が濃くなりつつある頃)、この釣鐘と寺の仏具を供出したそうです。
(供出とは:政府の要請により金品等差し出す事)

●当時の供出金属の一例:

- ・お寺の鐘や仏具
- ・公共のマンホールやベンチ、鉄柵
- ・一般家庭の金属(火鉢等価値のある金属類)

但し重要文化財等は除かれたそうです。

●供出先(この地区)

- ・石原産業(四日市)
- ・三重県で集められた金属類(武器生産に必要な金属)は全てここに集結され製錬されたそうです。

●しばらくすると戦争も終わり(昭和20年8月)、2か月後の10月に石原産業より連絡があり正念寺の鐘はまだ製錬されずにそのまま

残っているとの通知を受けました。

2/2

この朗報を聞いて徳田を代表し、渥美國彦氏らが石原産業に出向き無事釣鐘を受け取って来たとの事です。

残念な事に仏具はなかったそうです。(既に製錬済みのようです)

尚引き取りに当たっては檀家から米を集め(全部で2斗半)

相手への“お礼の品”として持参したとのことです。

- この鐘は当時より日入りの鐘として作られたもので今も徳田の人達に昼夕の時刻を告げるのと同時に寺の種々イベントや災害時の命の鐘として町民に親しまれています。

※本内容は正念寺さんのお話を参考にしました。

H.A